

第5章 労働力状態

1 労働力人口の推移

労働力人口は減少傾向

15歳以上人口（3,233,781人）の労働力状態をみると、労働力人口は1,738,600人で、戦後初めて減少となった前回調査に比べ、64,513人（3.6%）の減少となっています。

労働力人口を男女別にみると、男性は1,012,510人（労働力人口の58.2%）、女性は726,090人（同41.8%）となっており、前回比男性は68,868人（6.4%）減少し、女性は4,355人（0.6%）増加となっています。

さらに労働力率をみると、男性は72.4%で前回比3.8ポイント低下の一方、女性は49.3%で前回比0.1ポイント上昇しています。

【表5-1、図5-1、図5-2】

図5-1 労働力人口及び労働力率の推移（昭和25年～平成27年）

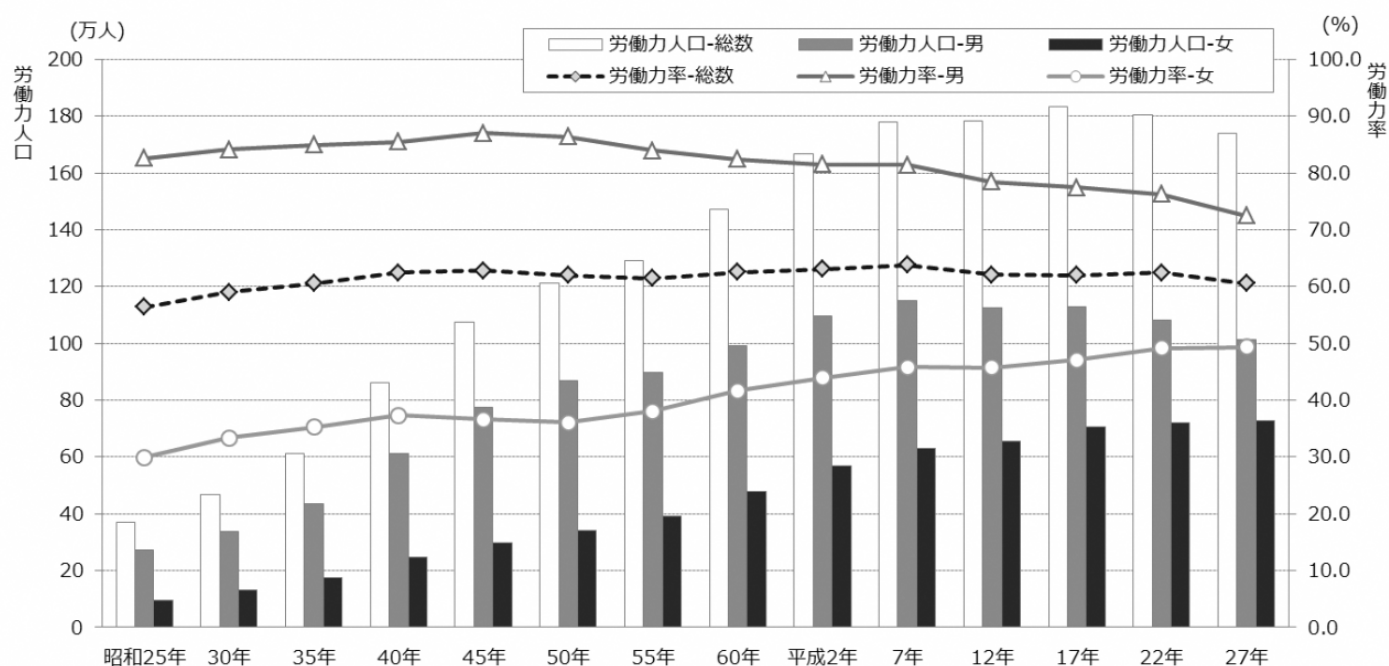


図5-2 労働力状態、男女別15歳以上労働力人口の割合（平成27年）

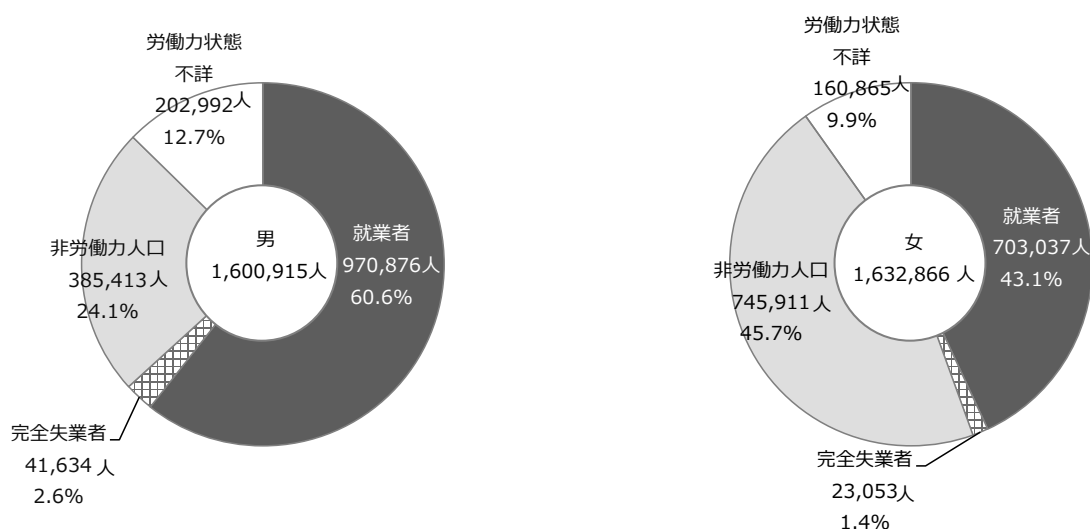


表5-1 労働力状態、男女別15歳以上人口の推移（昭和25年～平成27年）

男女 年次	15歳以上人口					労働力率 (%)	完全 失業率 (%)	対前回増減率(%)	
	総数 ¹⁾	労働力人口			非労働力 人口			15歳以上 人口	労働力 人口
		総数	就業者	完全 失業者					
総数									
昭和25年 ²⁾	656,292	370,196	357,112	13,084	286,037	56.4	3.5	-	-
30年	793,564	468,359	447,878	20,481	325,201	59.0	4.4	20.9	26.5
35年	1,010,702	611,736	604,504	7,232	398,854	60.5	1.2	27.4	30.6
40年	1,377,600	859,949	846,648	13,301	517,329	62.4	1.5	36.3	40.6
45年	1,707,325	1,073,032	1,058,905	14,127	634,183	62.9	1.3	23.9	24.8
50年	1,956,378	1,212,266	1,184,241	28,025	744,112	62.0	2.3	14.6	13.0
55年	2,104,331	1,289,753	1,258,353	31,400	808,990	61.5	2.4	7.6	6.4
60年	2,362,299	1,472,075	1,425,917	46,158	881,910	62.5	3.1	12.3	14.1
平成2年	2,651,769	1,665,252	1,618,075	47,177	973,682	63.1	2.8	12.3	13.1
7年	2,812,368	1,780,067	1,700,629	79,438	1,008,369	63.8	4.5	6.1	6.9
12年	2,940,204	1,783,068	1,699,750	83,318	1,089,222	62.1	4.7	4.5	0.2
17年	3,063,487	1,834,323	1,736,859	97,464	1,122,583	62.0	5.3	4.2	2.9
22年	3,176,601	1,803,113	1,703,374	99,739	1,082,713	62.5	5.5	3.7	△1.7
27年	3,233,781	1,738,600	1,673,913	64,687	1,131,324	60.6	3.7	1.8	△3.6
男									
昭和25年 ²⁾	330,326	272,740	264,215	8,525	57,555	82.6	3.1	-	-
30年	401,041	337,368	322,175	15,193	63,669	84.1	4.5	21.4	23.7
35年	514,027	436,498	431,430	5,068	77,490	84.9	1.2	28.2	29.4
40年	717,986	613,594	604,156	9,438	104,305	85.5	1.5	39.7	40.6
45年	888,836	773,247	763,482	9,765	115,500	87.0	1.3	23.8	26.0
50年	1,007,951	870,432	849,581	20,851	137,519	86.4	2.4	13.4	12.6
55年	1,072,805	898,953	876,158	22,795	172,050	83.9	2.5	6.4	3.3
60年	1,209,220	992,347	960,773	31,574	211,594	82.4	3.2	12.7	10.4
平成2年	1,355,640	1,098,018	1,067,097	30,921	249,663	81.5	2.8	12.1	10.6
7年	1,431,232	1,150,709	1,099,193	51,516	263,208	81.4	4.5	5.6	4.8
12年	1,484,181	1,126,113	1,071,869	54,244	309,076	78.5	4.8	3.7	△2.1
17年	1,534,757	1,129,077	1,065,183	63,894	329,462	77.4	5.7	3.4	0.3
22年	1,583,778	1,081,378	1,015,632	65,746	337,095	76.2	6.1	3.2	△4.2
27年	1,600,915	1,012,510	970,876	41,634	385,413	72.4	4.1	1.1	△6.4
女									
昭和25年 ²⁾	325,966	97,456	92,897	4,559	228,482	29.9	4.7	-	-
30年	392,523	130,991	125,703	5,288	261,532	33.4	4.0	20.4	34.4
35年	496,675	175,238	173,074	2,164	321,364	35.3	1.2	26.5	33.8
40年	659,614	246,355	242,492	3,863	413,024	37.4	1.6	32.8	40.6
45年	818,489	299,785	295,423	4,362	518,683	36.6	1.5	24.1	21.7
50年	948,427	341,834	334,660	7,174	606,593	36.0	2.1	15.9	14.0
55年	1,031,526	390,800	382,195	8,605	636,940	38.0	2.2	8.8	14.3
60年	1,153,079	479,728	465,144	14,584	670,316	41.7	3.0	11.8	22.8
平成2年	1,296,129	567,234	550,978	16,256	724,019	43.9	2.9	12.4	18.2
7年	1,381,136	629,358	601,436	27,922	745,161	45.8	4.4	6.6	11.0
12年	1,456,023	656,955	627,881	29,074	780,146	45.7	4.4	5.4	4.4
17年	1,528,730	705,246	671,676	33,570	793,121	47.1	4.8	5.0	7.4
22年	1,592,823	721,735	687,742	33,993	745,618	49.2	4.7	4.2	2.3
27年	1,632,866	726,090	703,037	23,053	745,911	49.3	3.2	2.5	0.6

1) 労働力状態「不詳」を含む。ただし、昭和50年は非労働力人口に労働力状態「不詳」を含む。

2) 調査対象が14歳以上であったため、全ての数値は14歳以上である。

2 男女、年齢別労働力人口及び労働力率

女性の労働力率が上昇し、「M字カーブ」の底が上昇

15歳以上人口の労働力率を男女、年齢階級別にみると、男性は25歳から59歳までの各年齢階級が90%台と高く、それ以外の年齢階級で低い「台形型」となっていますが、女性は25～29歳の82.9%と45～49歳の72.0%を頂点とし、35～39歳の66.2%を底とする「M字カーブ」となっています。

また、前回調査と比べると、男女とも60歳から74歳の各年齢階級の労働力率が上昇しています。特に女性の25～29歳(82.9%)と35～39歳(66.2%)との差が16.7ポイントとなり、前回調査(20.1ポイント)と比べ、緩やかに「M字カーブ」の底が上昇しています。

さらに、いわゆる男女雇用機会均等法が施行される直前の昭和60年と、平成17年、22年、27年の労働力率の推移をみると、男性は15歳から59歳の各年齢階級で低下し、平成17年以降は60歳から74歳の各年齢階級で上昇しています。女性の25歳から74歳の各年齢階級の労働力率は、平成17年以降上昇しています。

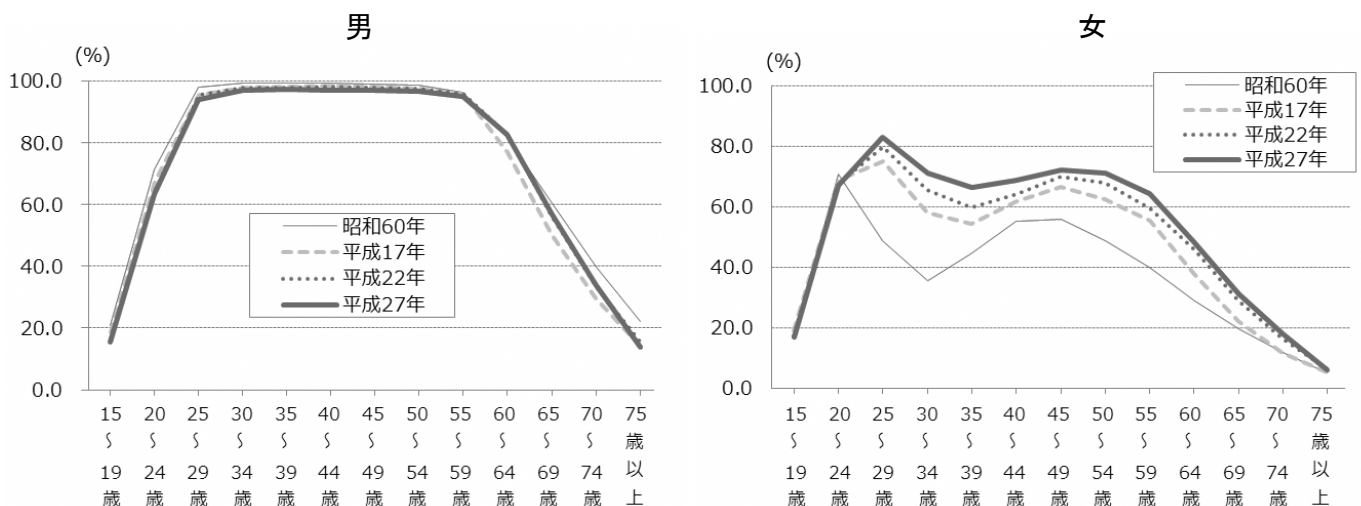
【表5-2、図5-3】

表5-2 年齢(5歳階級)、男女別労働力率の推移(昭和60年～平成27年)

(単位: %)

男女年次	総数	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	(再掲)65歳以上
男															
昭和60年	82.4	20.7	71.1	97.9	99.1	99.1	99.1	98.9	98.4	96.3	81.7	60.3	39.9	22.0	42.0
平成2年	81.5	20.7	72.6	97.8	99.0	99.1	99.1	99.0	98.5	96.8	80.3	58.4	36.8	19.9	39.7
7年	81.4	18.1	71.1	97.1	98.7	99.0	98.9	98.7	98.2	96.7	81.6	57.5	36.5	18.6	39.9
12年	78.5	17.1	66.5	95.2	97.6	98.1	98.1	97.9	97.4	95.3	74.0	49.7	28.7	15.3	33.0
17年	77.4	18.7	67.0	95.3	97.6	98.1	98.2	97.9	97.2	95.6	76.8	50.1	29.5	14.3	31.6
22年	76.2	16.8	64.3	95.2	97.6	97.9	98.0	97.8	97.2	95.6	82.6	56.2	33.5	15.7	34.4
27年	72.4	15.3	63.4	94.0	96.8	97.2	96.9	96.9	96.4	94.9	82.7	56.6	33.9	13.8	32.7
女															
昭和60年	41.7	16.9	70.7	48.7	35.4	44.6	55.1	55.7	48.8	40.0	29.0	19.5	11.7	5.0	12.0
平成2年	43.9	17.1	73.2	59.3	38.2	44.2	55.2	59.3	54.1	43.3	29.4	19.4	11.8	5.2	11.9
7年	45.8	15.5	72.3	66.3	45.3	45.2	54.4	59.9	57.7	49.4	32.2	20.3	12.6	5.3	12.4
12年	45.7	16.3	69.5	70.4	51.6	49.3	56.7	60.6	58.9	51.1	33.6	18.9	11.3	5.1	11.3
17年	47.1	19.0	69.0	75.0	58.1	54.2	61.9	66.4	62.5	55.3	37.8	21.9	11.7	5.1	11.9
22年	49.2	17.4	67.8	79.7	65.5	59.6	64.2	69.7	67.9	59.4	45.7	28.8	16.2	6.1	15.1
27年	49.3	16.7	67.0	82.9	70.9	66.2	68.8	72.0	71.2	64.3	48.4	31.0	18.0	6.0	15.7

図5-3 年齢(5歳階級)、男女別労働力率(昭和60年、平成17年、22年、27年)



3 男女、配偶関係別労働力率

「有配偶」の労働力率が他の配偶関係に比べて男性は高く、女性は30歳から74歳の各年齢階級で低い

15歳以上人口の労働力率を男女、配偶関係別にみると、男性は74歳までの各年齢階級で他の配偶関係に比べ「有配偶」の労働力率が高く、そのうち35～39歳の「有配偶」の労働力率が99.5%と最も高くなっています。40歳から74歳の各年齢階級でみると、「死別」及び「離別」に比べ、「未婚」の労働力率が低い傾向となっています。

一方、女性は25～29歳の「未婚」の労働力率が92.4%と最も高く、30歳から74歳の各年齢階級で他の配偶関係に比べ、「有配偶」の労働力率が低くなっています。

また、女性の「有配偶」の年齢階級別労働力率は女性全体の労働力率と同様、25～29歳(62.4%)と45～49歳(67.3%)を頂点とし、35～39歳(57.1%)を底とした「M字カーブ」となっています。

【表5-3、図5-4】

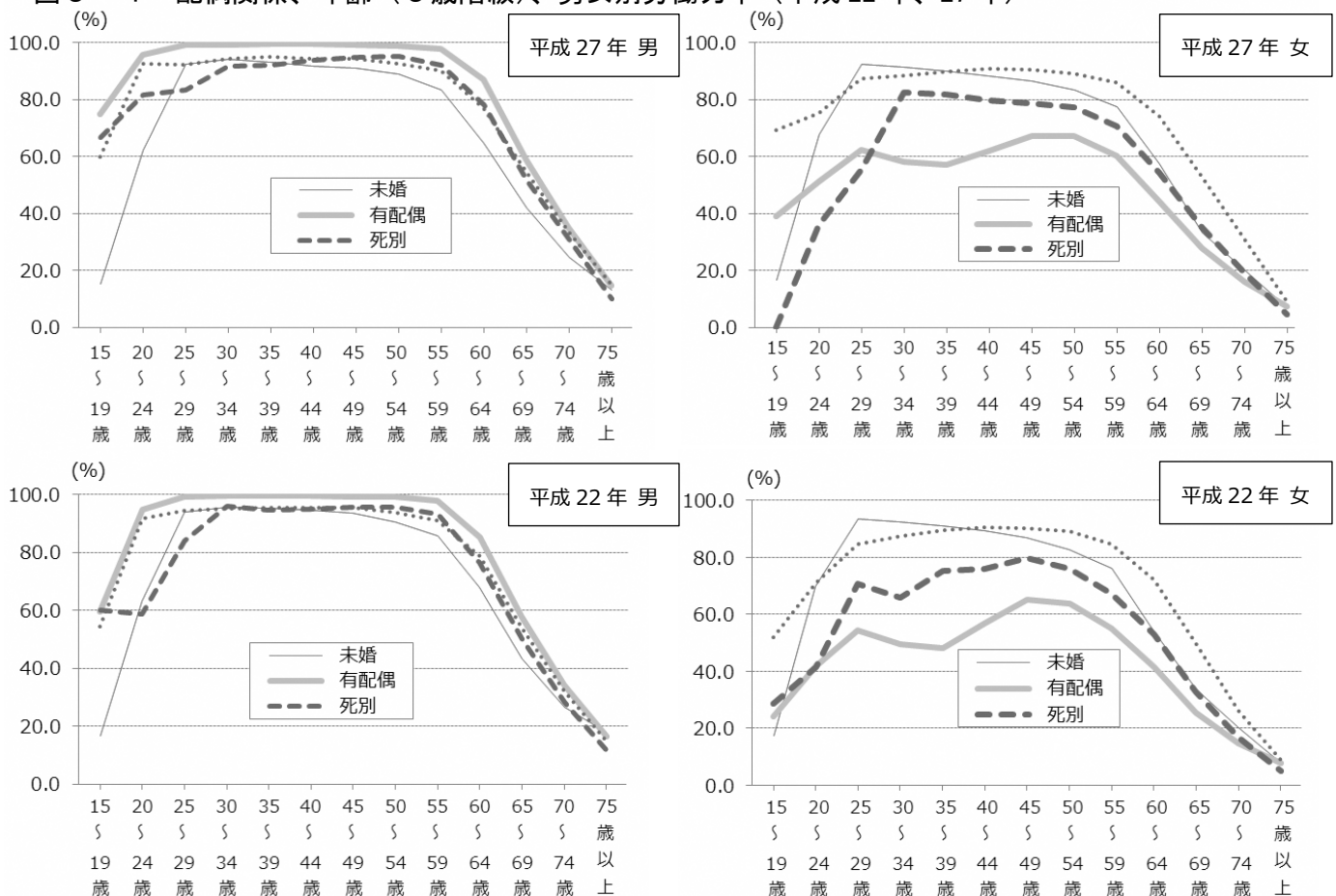
表5-3 配偶関係、年齢(5歳階級)、男女別労働力率(平成27年)

(単位: %)

男女 配偶関係	総数	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75歳 以上	(再掲) 65歳 以上
男 ¹⁾	72.4	15.3	63.4	94.0	96.8	97.2	96.9	96.9	96.4	94.9	82.7	56.6	33.9	13.8	32.7
未婚	69.2	15.2	62.3	92.5	94.1	93.1	91.9	91.0	88.9	83.4	64.5	42.1	24.8	13.3	32.2
有配偶	76.2	74.8	95.8	99.1	99.4	99.5	99.4	99.2	98.9	97.9	86.9	59.0	34.9	14.6	34.2
死別	28.3	66.7	81.8	83.3	91.7	92.1	94.0	94.8	95.0	92.1	78.0	51.8	30.9	10.2	19.2
離別	73.5	60.0	92.7	92.2	94.4	95.2	94.4	94.3	92.8	90.1	76.9	54.8	33.6	14.9	37.7
女 ¹⁾	49.3	16.7	67.0	82.9	70.9	66.2	68.8	72.0	71.2	64.3	48.4	31.0	18.0	6.0	15.7
未婚	64.5	16.6	67.6	92.4	91.5	90.1	88.3	86.4	83.3	77.6	57.2	33.4	20.2	7.1	19.0
有配偶	48.2	39.0	51.3	62.4	58.2	57.1	62.1	67.3	67.2	60.2	44.4	27.8	16.1	7.5	17.6
死別	15.1	-	36.0	55.6	82.6	81.7	79.7	78.7	77.4	70.5	54.3	35.3	19.4	4.8	10.0
離別	69.2	69.2	75.2	87.4	88.5	89.6	90.9	90.6	89.1	86.0	74.2	53.0	31.2	9.3	31.9

1) 配偶関係「不詳」を含む。

図5-4 配偶関係、年齢(5歳階級)、男女別労働力率(平成22年、27年)



4 就業者

男性の就業者数は減少傾向、女性は引き続き増加

15歳以上就業者は1,673,913人で、前回比29,461人(1.7%)減少しています。

男女別にみると、男性は970,876人(就業者の58.0%)、女性は703,037人(同42.0%)となっており、前回比男性は44,756人(4.4%)減少の一方、女性は15,295人(2.2%)増加となっています。

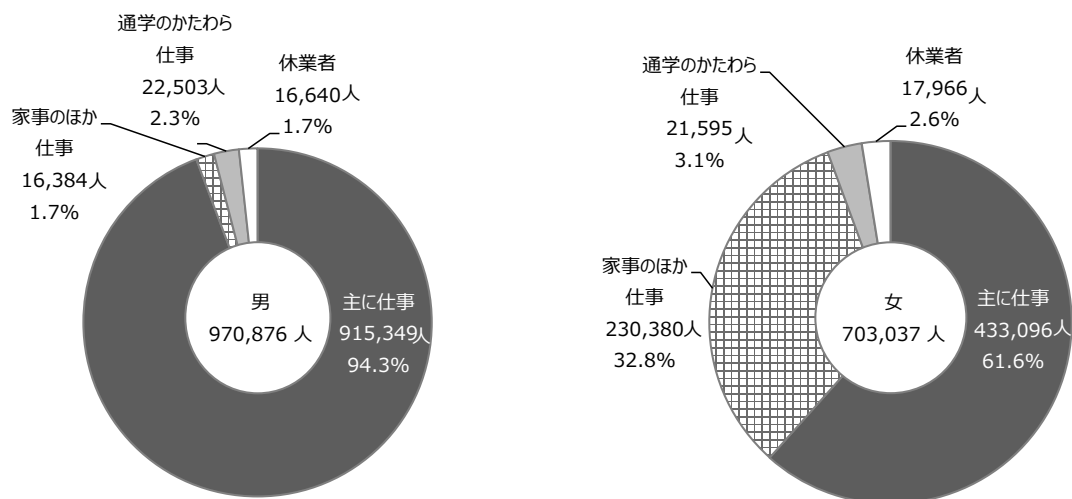
また、就業状態別割合をみると、男性は「主に仕事」が94.3%と就業者の大部分を占めていますが、女性は「主に仕事」が61.6%、「家事のほか仕事」が32.8%となっています。前回調査と比べると、「主に仕事」は男性では43,892人(4.6%)減少、女性では3,791人(0.9%)増加となっており、「家事のほか仕事」は男女とも増加し、男性は2,111人(14.8%)、女性は8,761人(4.0%)の増加となっています。

【表5-4、図5-5】

表5-4 就業状態、男女別15歳以上就業者の推移(昭和55年~平成27年)

男女 年次	15歳以上就業者数					就業状態別割合(%)			
	総数	主に仕事	家事のほか 仕事	通学 かたわら 仕事	休業者	主に 仕事	家事 の ほか 仕事	通学 の かたわら 仕事	休業者
総数									
昭和55年	1,258,353	1,087,976	146,112	12,419	11,846	86.5	11.6	1.0	0.9
60年	1,425,917	1,205,296	188,626	19,793	12,202	84.5	13.2	1.4	0.9
平成2年	1,618,075	1,386,540	188,729	28,413	14,393	85.7	11.7	1.8	0.9
7年	1,700,629	1,433,483	214,884	35,834	16,428	84.3	12.6	2.1	1.0
12年	1,699,750	1,437,878	201,918	38,294	21,660	84.6	11.9	2.3	1.3
17年	1,736,859	1,420,320	238,262	46,167	32,110	81.8	13.7	2.7	1.8
22年	1,703,374	1,388,546	235,892	44,781	34,155	81.5	13.8	2.6	2.0
27年	1,673,913	1,348,445	246,764	44,098	34,606	80.6	14.7	2.6	2.1
男									
昭和55年	876,158	856,896	2,391	8,422	8,449	97.8	0.3	1.0	1.0
60年	960,773	936,704	2,711	13,051	8,307	97.5	0.3	1.4	0.9
平成2年	1,067,097	1,036,853	3,541	17,916	8,787	97.2	0.3	1.7	0.8
7年	1,099,193	1,062,450	6,061	20,977	9,705	96.7	0.6	1.9	0.9
12年	1,071,869	1,030,218	8,223	21,249	12,179	96.1	0.8	2.0	1.1
17年	1,065,183	1,009,913	12,383	25,107	17,780	94.8	1.2	2.4	1.7
22年	1,015,632	959,241	14,273	23,770	18,348	94.4	1.4	2.3	1.8
27年	970,876	915,349	16,384	22,503	16,640	94.3	1.7	2.3	1.7
女									
昭和55年	382,195	231,080	143,721	3,997	3,397	60.5	37.6	1.0	0.9
60年	465,144	268,592	185,915	6,742	3,895	57.7	40.0	1.4	0.8
平成2年	550,978	349,687	185,188	10,497	5,606	63.5	33.6	1.9	1.0
7年	601,436	371,033	208,823	14,857	6,723	61.7	34.7	2.5	1.1
12年	627,881	407,660	193,695	17,045	9,481	64.9	30.8	2.7	1.5
17年	671,676	410,407	225,879	21,060	14,330	61.1	33.6	3.1	2.1
22年	687,742	429,305	221,619	21,011	15,807	62.4	32.2	3.1	2.3
27年	703,037	433,096	230,380	21,595	17,966	61.6	32.8	3.1	2.6

図5-5 就業状態、男女別15歳以上就業者の割合（平成27年）



5 完全失業者

完全失業者数及び完全失業率は男女とも減少

15歳以上完全失業者数は64,687人で、戦後最多だった平成22年の99,739人に比べ、35,052人(35.1%)の減少となっています。

男女別にみると、男性は41,634人、女性は23,053人で、前回比男性は24,112人(36.7%)減少、女性は10,940人(32.2%)減少と、男女とも30%を超える減少となっています。

また、完全失業率をみると、昭和45年以降上昇傾向でしたが、平成22年の5.5%から1.8ポイント低下し、3.7%となっています。

さらに年齢階級別にみると、男女とも20～24歳が最も高く、男性6.1%、女性4.8%となっています。

【表5-5、図5-6、図5-7】

表5-5 完全失業者数及び完全失業率の推移（昭和25年～平成27年）

年次	完全失業者数			完全失業率 (%)		
	総数	男	女	総数	男	女
昭和25年	13,084	8,525	4,559	3.5	3.1	4.7
30年	20,481	15,193	5,288	4.4	4.5	4.0
35年	7,232	5,068	2,164	1.2	1.2	1.2
40年	13,301	9,438	3,863	1.5	1.5	1.6
45年	14,127	9,765	4,362	1.3	1.3	1.5
50年	28,025	20,851	7,174	2.3	2.4	2.1
55年	31,400	22,795	8,605	2.4	2.5	2.2
60年	46,158	31,574	14,584	3.1	3.2	3.0
平成2年	47,177	30,921	16,256	2.8	2.8	2.9
7年	79,438	51,516	27,922	4.5	4.5	4.4
12年	83,318	54,244	29,074	4.7	4.8	4.4
17年	97,464	63,894	33,570	5.3	5.7	4.8
22年	99,739	65,746	33,993	5.5	6.1	4.7
27年	64,687	41,634	23,053	3.7	4.1	3.2

図5-6 完全失業者数及び完全失業率の推移（昭和25年～平成27年）

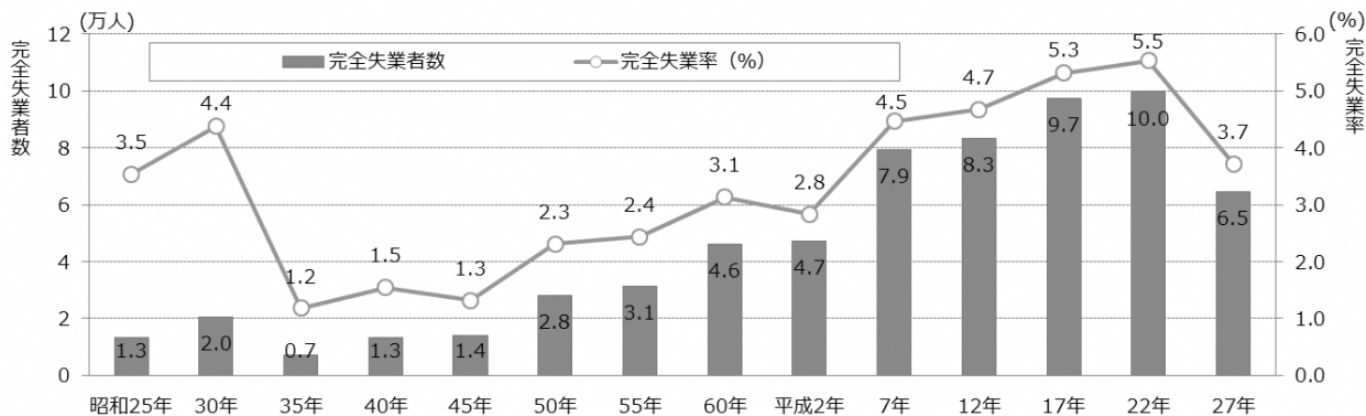
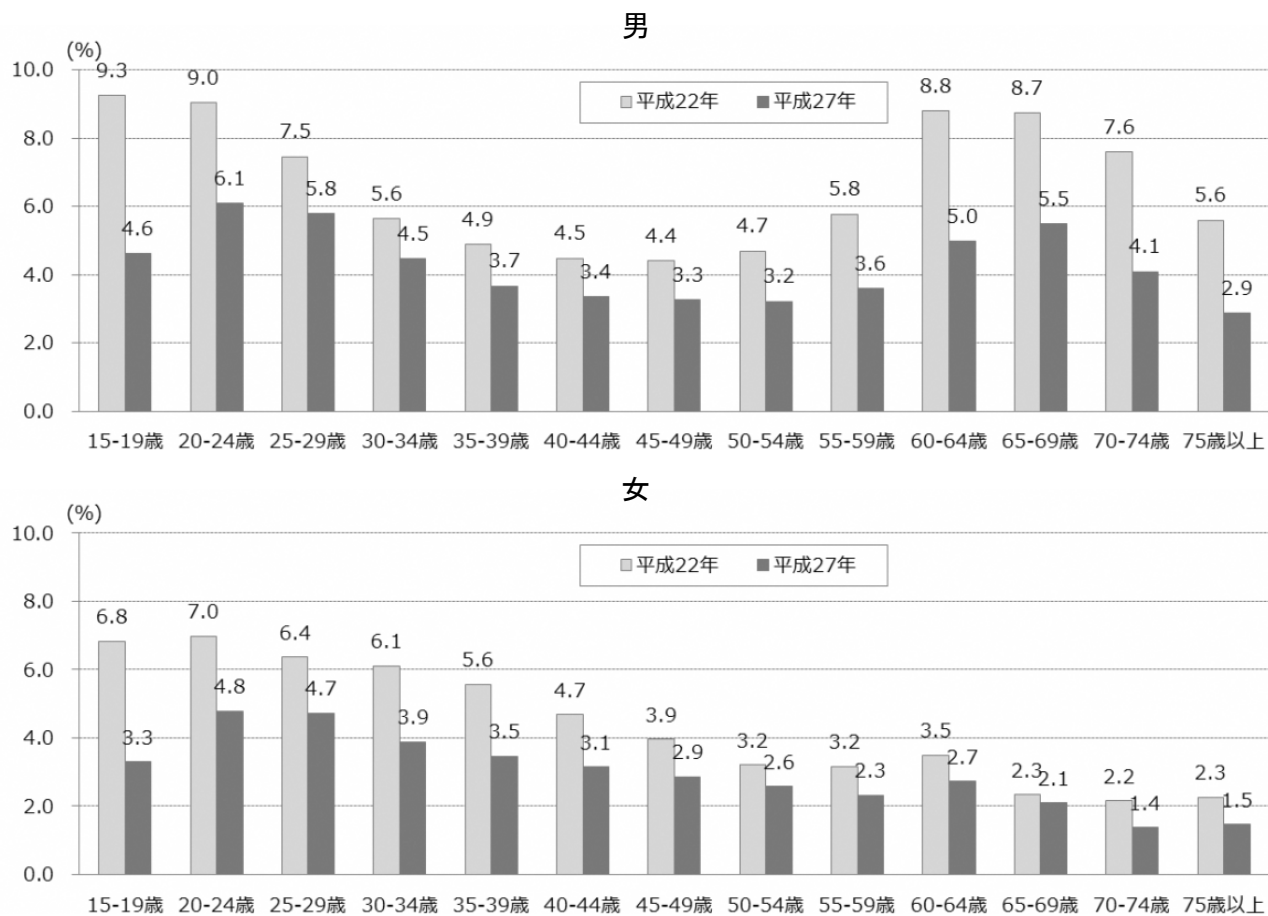


図5-7 年齢（5歳階級）、男女別完全失業率（平成22年、27年）



6 行政区別労働力人口及び労働力率

労働力人口は都筑区、青葉区で増加、他 16 区では減少

15歳以上労働力人口を行政区別にみると、港北区(165,533人、労働力人口の9.5%)が最も多く、次いで青葉区(144,570人、同8.3%)、鶴見区(140,346人、同8.1%)、戸塚区(126,865人、同7.3%)となっています。前回調査と比べると、15歳以上人口は金沢区(2.4%減)、港南区(1.9%減)など6区で減少していますが、労働力人口は都筑区(4,813人増、5.0%増)、青葉区(958人増、0.7%増)を除く16区で減少となっています。

また、労働力率を行政区別にみると、西区が66.9%と最も高く、次いで鶴見区(66.5%)、港北区(65.2%)、神奈川区(64.9%)となっています。一方、最も低いのは栄区(54.4%)で、西区との差は12.5ポイントとなっています。【表5-6、図5-8】

表5-6 労働力状態別15歳以上人口—行政区(平成27年)

行政区	15歳以上人口					労働力率(%)	完全失業率(%)	対前回増減率(%)	
	総数 ¹⁾	労働力人口			非労働力人口			15歳以上人口	労働力人口
		総数	就業者	完全失業者					
横浜市	3,233,781	1,738,600	1,673,913	64,687	1,131,324	60.6	3.7	1.8	△3.6
鶴見区	245,894	140,346	135,448	4,898	70,810	66.5	3.5	4.8	△0.1
神奈川区	209,440	116,178	111,961	4,217	62,805	64.9	3.6	2.2	△3.1
西区	86,890	48,133	46,397	1,736	23,782	66.9	3.6	3.7	△1.3
中区	129,959	64,441	61,527	2,914	37,623	63.1	4.5	5.4	△1.5
南区	173,005	90,067	85,944	4,123	57,063	61.2	4.6	△0.1	△8.1
港南区	189,297	98,999	95,157	3,842	73,421	57.4	3.9	△1.9	△8.0
保土ヶ谷区	180,751	95,204	91,437	3,767	64,218	59.7	4.0	0.2	△5.5
旭区	216,614	111,551	107,012	4,539	86,012	56.5	4.1	△0.9	△7.9
磯子区	145,379	77,962	74,750	3,212	53,407	59.3	4.1	1.6	△1.6
金沢区	177,216	94,022	90,363	3,659	70,406	57.2	3.9	△2.4	△6.8
港北区	299,358	165,533	160,198	5,335	88,320	65.2	3.2	4.6	△1.9
緑区	154,884	85,786	82,590	3,196	55,541	60.7	3.7	2.2	△0.8
青葉区	265,515	144,570	140,170	4,400	98,687	59.4	3.0	3.1	0.7
都筑区	175,024	100,310	97,585	2,725	58,469	63.2	2.7	8.8	5.0
戸塚区	236,601	126,865	122,311	4,554	89,838	58.5	3.6	0.9	△5.5
栄区	106,421	53,656	51,452	2,204	44,977	54.4	4.1	△1.5	△8.1
泉区	133,909	69,770	66,817	2,953	54,999	55.9	4.2	0.4	△5.6
瀬谷区	107,624	55,207	52,794	2,413	40,946	57.4	4.4	△0.6	△8.0

1) 労働力状態「不詳」を含む。

図5-8 労働力率及び労働力人口—行政区(平成27年)

